学校規模適正化について

男沼小、太田小、妻沼南小

令和3年11月

熊谷市教育委員会教育総務課（本庁舎6階）
TEL：048-524-1111（内線517）　FAX：048-525-9330
メール：kyoikusomu@city.kumagaya.lg.jp

●熊谷市の現状

熊谷市では、ほぼ全ての学校において児童・生徒が減少し、学校の小規模化が進行しており、今後もこの傾向は続くと見込まれています。

学校が小規模化すると・・・

・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。
・異学年間の縦の交流が生まれやすい。
・児童生徒に目が届きやすい。

などのメリットがある一方で、

・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少ない。
・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
・人間関係や相互の評価が固定されやすい。

などの課題（デメリット）が懸念されます。

子供たちを第一に考え、「知・徳・体」の確かな学力を身に付けさせるため、よりよい教育環境の創造を目指す。

【熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針】
（2018年11月策定）

活力ある学校づくりに向けて、今後の適正化を図るための推進方策を示し、学校の統廃合等を進める。
なお、統廃合を進めるにあたっては、保護者や地域住民に対し、趣旨や実施方法等について説明し、意見を尊重しながら進める。

◎学校統廃合等の検討基準（基本方針）

①学校規模の基準	
小学校の望ましい規模	12学級から18学級まで（クラス替えが可能な、1学年2学級以上が望ましい）
中学校の望ましい規模	9学級から18学級まで（クラス替えが可能であるとともに、全ての授業で教科担任による学習指導が行える、1学年3学級以上が望ましい）

②通学距離の基準	
小学校	おおむね4キロ以内
中学校	おおむね6キロ以内

※　基準となる通学距離を超える場合は、スクールバス等の通学手段を検討する。

③学校統廃合等の基準

1．小学校

基準	対応
複式学級の編成が見込まれる場合	直ちに、学校統廃合等の適否について検討する
全学年で単学級となることが見込まれる場合	児童数の動向に注視しつつ、学校統廃合等の適否について検討する

2．中学校

基準	対応
複式学級の編成が見込まれる場合	直ちに、学校統廃合等の適否について検討する
全学年で2学級以下となることが見込まれる場合	生徒数の動向に注視しつつ、学校統廃合等の適否について検討する

熊谷市個別施設計画　⑮学校施設編

●熊谷市個別施設計画　⑮学校施設編

①学校の規模適正化にあたっては、小学校を優先するとともに、児童・生徒の少ない学校を優先して統廃合を検討
②廃校後の学校体育館は地域体育館に転用
③学校プールは水泳授業への校外方式導入に合わせ順次廃止
④学校給食施設は新センターを整備し、自校式は順次センターへ統合

●統廃合（案）

小学校	設置場所	統合年度
成田小、星宮小	成田小	2023
男沼小、太田小、妻沼南小	妻沼南小	2025
長井小、秦小	長井小	2027
吉岡小、市田小	吉岡小	2029
熊谷南小、桜木小	熊谷南小	2030～2034
中条小、奈良小	奈良小	2030～2034
江南南小、江南北小	江南南小	2030～2034
佐谷田小、久下小	佐谷田小	2030～2034
玉井小、新堀小	玉井小	2035～2044

中学校	設置場所	統合年度
吉岡中、大里中	大里中	2029
中条中、奈良中	中条中	2030～2034
玉井中、別府中	玉井中	2035～2044
大麻生中、三尻中	三尻中	2035～2044
妻沼東中、妻沼西中	妻沼東中	2035～2044
荒川中、大原中	荒川中	2035～2044

●統廃合の内容

【新たな学校としての設置】
　対象となる学校の規模や創立時からの経過年数に関わらず、対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。

【設置場所】
　新たな学校は、既存の学校を使用し、校地面積や校舎の建築年数、周辺環境や通学距離などを勘案して決定します。

【通学方法】
　元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスの利用を想定しています。乗降場所等については、学校や保護者と協議のうえ、決定します。
　中学校は、自転車通学を想定しています。

【その他】
- 校名や校章、校歌など、学校に関わる具体的な内容は、新校設立準備委員会を立ち上げて検討していきます。
- 統廃合の準備についても、子供達と保護者の心配や負担ができるだけ少なくなるよう進めます。
- 統合後の校舎等を含めた跡地活用については、別途意見を伺いながら決定します。

●男沼小、太田小、妻沼南小の現状

妻沼地区にあり、学区が隣りあっている3校は、現時点ですべて単学級となっており、今後も児童数の減少が予想されます。

●方針（案）

3校を対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。

設置場所：校舎が新しく、敷地面積も広い妻沼南小を設置場所とします。
供用開始年度：2025年度（令和7年度）
跡地利用：男沼小、太田小の跡地については、地域拠点施設等への転用も含め、今後検討します。

〇敷地面積と校舎

	敷地面積	校舎等の建築年度
男沼小	14,582㎡	1982 1992 2001
太田小	17,748㎡	1977 1987
妻沼南小	30,603㎡	1993

●学校規模適正化

〇メリット

【学習生活面】

・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸長させることができる。
・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。
・児童生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。
・クラブ活動や委員会活動、部活動等において、多様な選択が可能となり、互いに能力を高め合う効果が期待できる。

【学校運営面】

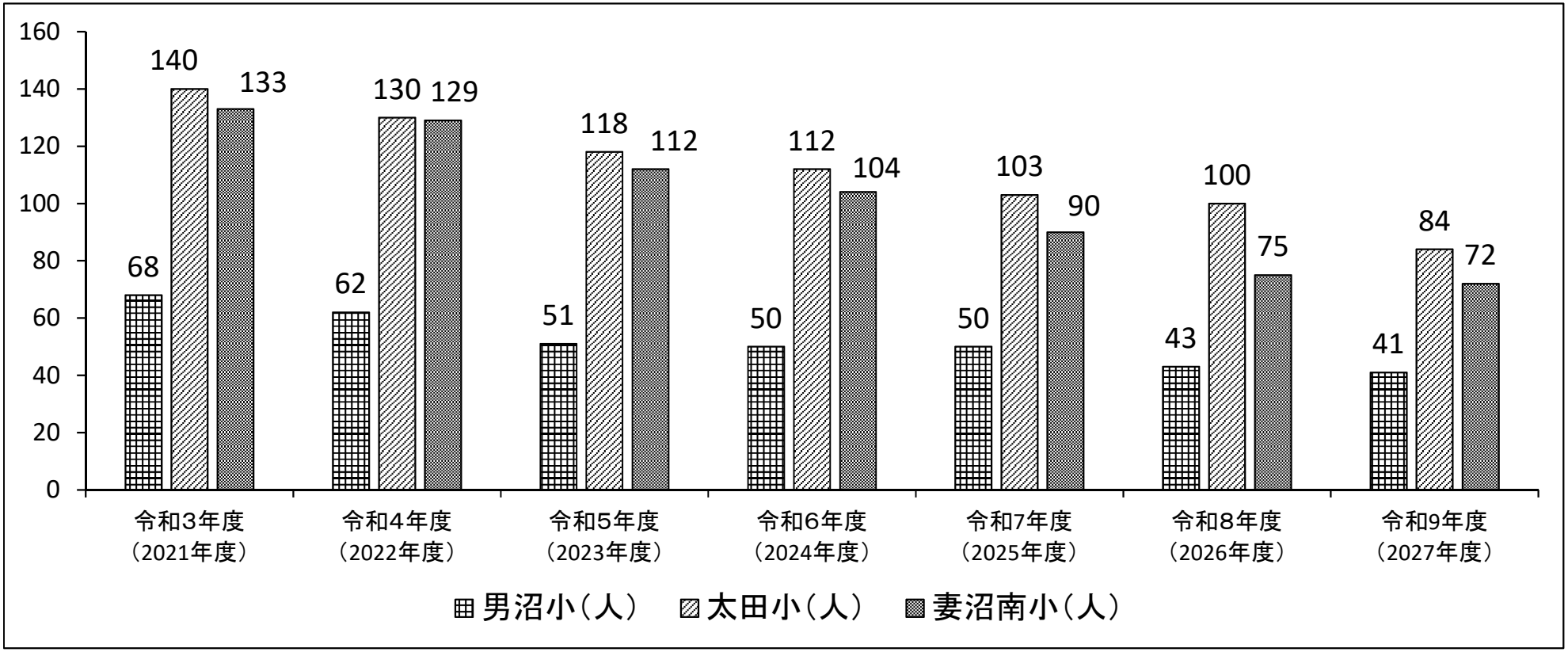
・経験、教科、特性等の面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。
・教員相互の研修や校務分掌の負担の軽減が可能になる。
・PTA活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。

〇デメリット（課題）

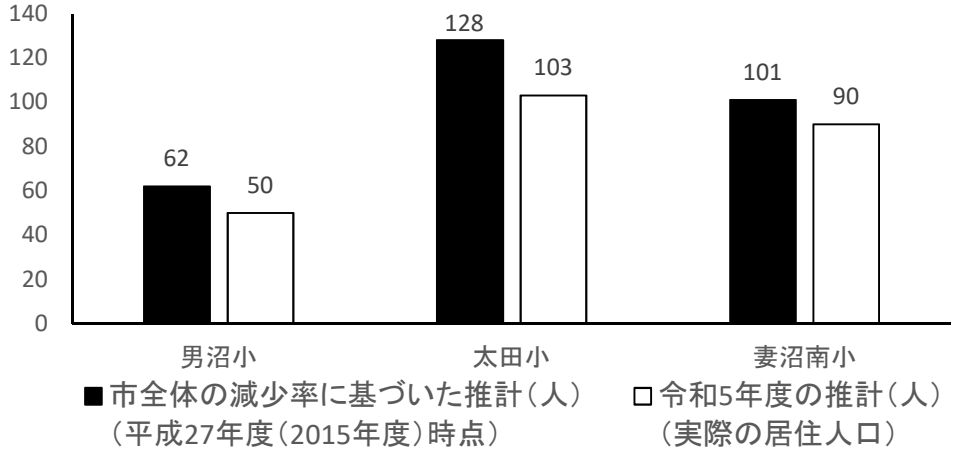
・統合による環境変化への適応
→統合前の事前交流や事前指導、統廃合後のアンケートや面談の実施など、継続的に子供達のケアに努める。
・通学距離が長くなる可能性（元の学区に小学校がなくなる地域）
→スクールバス（小学校）など、通学方法を検討する。

⇒統合準備委員会でも検討し、課題の解消に努めます。

◎住民基本台帳人口を基にした児童数の見込（令和3年5月1日現在）



〇令和7年度（2025年度）児童数の見込



〇令和7年度（2025年度）学年ごとの児童数見込（人）

学校名	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年
男沼小学校	50	9	7	4	8	8	14
太田小学校	103	11	16	17	18	24	17
妻沼南小学校	90	12	7	12	19	18	22
合計	243	32	30	33	45	50	53

● 統合に関する御意見・御質問（主なもの）

１　統合

- 統合により切磋琢磨でき、一人一人モチベーションがあがると思う。
- 統合には賛成です。極小規模校なりの利点も多いとは思います。その逆も多く、人間関係が固定化されるなど、解決が難しい事も改善されるのではないでしょうか。
- 時代の流れに見合った最適な方法だと思います。
- 子供達の事を第一に考えての統合であれば、反対はしません。
- 子供の減少により統合は仕方がないと思います。男沼・太田・妻沼南は同じ中学校に通うので、良いと思います。
- 子供の人数が減ってしまっているため、統合は仕方ないというか必然的にそうなるものと思っていました。
- 地区に学校が無くなるのは大変さみしいが、仕方のないことだと思う。
- 統合はやむを得ないと思うので、送迎のバスのことや子供のフォローについてしっかり決めていただけたらと思う。
- 反対。少人数の方が生徒一人一人に先生の目が行き届く。バス通学が不便。
- 統合するのであればもう少し早めがいいと思いました。

２　（統合する場合）環境の変化

- 仕方ないと思うが、子供達の負担が大きいと思うので、心配や不安が多い。
- 残り１年のところで統合になってしまうので、子供に精神的な負担がかからないかが一番心配なところである。スムーズに移行できるように（子供達の心理面を含めて）事前の取組み案などを明示して頂きたい。
- 少人数での授業に慣れているので、多人数になったときに目が届かなくなりそうで、少し不安があります。
- 統合をした後の子供の落ち着きが心配です。子供の成長期、勉強などに影響が出ないか・・・心配です。
- 統合前に慣らしの期間ではないですが、少しずつ環境を変える準備をしていただきたいです。

３　（統合する場合）通学

- スクールバスの運行方法。乗降場所を複数設置とありますが、乗降場所が危険ではないか、時間の問題など、下校時の時間のバラつきがあるときに、どういう対応があるのか。
- 一番の不安は通学方法。スクールバスにしても、今でも早い登校時間なのに、これ以上早くなっては困る。
- スクールバスなのか、決定しているのでしょうか。

４　（統合する場合）学用品

- いつ頃から、子供達が直接統合に向けた準備をするのか。新たに購入する物などはあるのか。
- 新しい学校のジャージなどを、どの程度買いそろえないといけないのか。
- 今の学校で用意した物を改めて買い直すのかどうか（体操着や学用品等全て）。

５　（統合する場合）学校跡地

- 統合後の学校の使い方が明確ではない。より一層高齢化が進み、若者が旧妻沼町に住まなくなる。地域の活性化を優先すべき。
- 統合後、カルチャースクールや塾等に利用してほしい。
- 今ですら近所に子供達の遊び場がなく、学校の校庭で遊んでいる状態です。学校が統合でなくなった際、外で遊ぶ場が無くなってしまうと思うので、その辺りも考えていただけたらと思います。（子供達だけで自転車で行ける範囲など）
- 避難場所として小学校がどの程度残るのか。（水害時高い建物がない。）

６　（統合する場合）その他

- 統合により今後ますます子供の数が少なくなる事が不安です。
- PTAの役員や資源回収などの活動はどうなるのか。
- 登校時の旗振り当番はどうなるのか。
- 学童クラブはどうなるのか。妻沼南小に隣接する学童クラブがいっぱいになって、入れなくなってしまわないか。